

ともに在って、ともに生きて、ともに育ち合う地域を目指す
～「わがまち」にある希望を紡ぐ～

同志社大学 社会学部 社会福祉学科

空閑 浩人(くがひろと)

I. 一人を大切にする支援と一人が大切にされる地域づくり

(1) NHK連続テレビ小説『虎に翼』(2024年度前期放送)と『あんぱん』(2025年度前期放送)

①『虎に翼』は日本初の女性弁護士の一人である三淵嘉子を主人公のモデルとした物語

(男女差別が当然とされていた昭和初期の時代、主人公の猪爪寅子(伊藤沙莉)は法曹界に飛び込んで、弁護士試験に挑戦します。そして、合格したあとの祝賀会で次のように言います。)

「生い立ちや信念や格好で切り捨てられたりしない、男性か女性かでふるいにかけられない社会になることを、私は心から願います・・・いや、みんなでしませんか?しましょうよ!」

(吉田恵里香・豊田美加(2024)『NHK連続テレビ小説 虎に翼(上)』NHK出版、132頁)

*様々な地域福祉の活動は、私たちの社会が人にやさしく寛容なものであるために、ともに在って、連帯し、行動し、発信する実践。それは「みんなでしませんか?しましょうよ!」呼びかける営み

②『あんぱん』は「アンパンマン」の作者やなせたかしとその妻・小松暢(今田美桜)をモデルにした物語 *柳井嵩(北村匠海)の叔父であった柳井寛(竹野内豊)の言葉

(寛の甥の嵩(たかし)が、東京高等芸術学校の受験に合格したときの、寛の嵩への言葉)

○「嵩、何のために生まれて、何のために生きるか? (中略) それは、人を喜ばせるためや。今日は嵩がわしを喜ばせてくれた。おまんのあんなにうれしそうな顔を見て、わしもこじゃんとうれしかった」

○「人生は喜ばせごっこや」

(中園ミホ・後藤美奈(2025)『NHKテレビ小説あんぱん(上)』NHK出版、109頁)

*地域福祉の活動は、かかわる人同士、出会う人同士、つながる人同士の「喜ばせごっこ」の活動

(2)「諸君ヨ、人一人ハ大切ナリ」(同志社創立者・新島襄(1843-1890)の言葉)

*社会福祉の支援や地域づくりの活動とは、そこにいる「一人」を大切にするかわりや支援であり、そこで暮らす「一人」が大切にされる関係づくりや場づくり、地域づくりをともにする営み

*たくさんの「いま・ここで」の出会いとかかわりと時間、「現在(いま)ともにある」ことを大切にする(楽しむ、喜ぶ、愛おしむ、尊ぶ、支え合う、分かち合う)こと

(3)地域を大切に思う私たちは、他者を「思いやる」、他者のことを「想像する」ことを大切にしたい

*他者や生活問題への人々の「想像力」が欠如していく(「自分には関係ない」の意識が広がる)社会のなかで、孤立や分断、差別の問題が発生し、拡大し、温存される

*是枝裕和監督による映画「怪物」(2023年公開)のメッセージ

○誰もが怪物のように見える世界。それは自分の視野だけで物事を判断し、他者への想像力を欠く不寛容な世界だ。そんな世界が「コロナ禍を挟んだこの5年でますます広がった」と是枝は語る。

(「痛みの先の希望と再生(カンヌ映画祭2023下)」『日本経済新聞』2023年6月9日(金))

○世界中至るところに断絶や分断がある。理解できるものとできないものを色分けして、理解できないものは排除する。見えないことは見ない、存在しないことにするという状況が、加速度的に進んでいる気がする。

(「映画『怪物』是枝裕和監督」『毎日新聞』2023年6月20日(火)夕刊)

2. 「タイパ（タイムパフォーマンス）」の時代と地域づくりの活動

(1) コスパ（費用対効果）ならぬ、時間あたりの「生産性」（手っ取り早さ）が優先されるタイパ

*動画の早送りや倍速視聴、映画やドラマの途中を飛ばして見るなどによる「時短」の行為

*社会福祉や当事者への支援のなかに、「タイパ」の文化が浸透していないだろうか？

*人の成長や変化（そしてそこにつながる支援の仕事）は、効率や生産性で測るものではない

*当事者の「ゆっくり」「ぼちぼち」「ぐずぐず」「少しづつ」「ああだこうだ」「行ったり来たり」（そもそも人間とは、人間の成長や変化とはそんなものでは？）・・・に「不寛容な空気」になっていないか？

*「ゆっくり」でなければ、見えないものがあるという支援の仕事や福祉の活動

最近、違和感を覚えているのは「タイパ」という言葉だ。タイムパフォーマンスの略で、時間あたりの生産性を重視する考え方として、若者から流行し始め、今は中高年にも広がっているそうだ。たとえば、映画やオンライン授業の動画を早送りで視聴することで、時間の節約になるのだという。効率よく物事をこなしたい気持ちちはわからなくはないが、生産性を追求することは主体的に考える時間、そこで感じた疑問や違和感を深める試行錯誤をも、省略することになってしまわないだろうか。インプットする情報が多くなるほど、思考は深まるわけではない。人の考えをうのみにするのではなく、そこからじっくりと自分なりの思考を深めるには、最短の道ではなく、むしろ無駄と思えるような寄り道や余白の時間が必要となるのではないか。（河合香織「『タイムパフォーマンス』の対極」『毎日新聞』2023年1月8日（日）朝刊より）

(2) ともに支え合って、ともに生きる地域を目指す～漫画・アニメ『ONE PIECE』と社会福祉～

*「一人で抱えなくていい、がんばらなくていい、堂々と助けを求めていい社会の実現」に向けて

*「地域共生社会」とは何か？「ともに生きる」とはどのような状態やあり方なのか？

漫画「ONEPIECE（ワンピース）」は、1997年から『週刊少年ジャンプ』（集英社）に連載されている尾田栄一郎さんの作品です。海賊となった主人公の少年モンキー・D・ルフィが、「ワンピース（ひとつなぎの大秘宝）」をめざして仲間とともに旅をする冒険物語です。仲間を集めて本格的に航海に乗り出した主人公モンキー・D・ルフィが、第90話「何ができる」のなかで以下の言葉を叫びます。

何もできねエから、助けてもらうんだ!!! おれは剣術を使えねエんだ コノヤロー!!!

航海術も持ってねエし!!! 料理も作れねエし!! ウソもつけねエ!!

おれは助けてもらわねエと 生きていいねエ自信がある!!!

（尾田栄一郎（1999）『ONEPIECE 第10巻』集英社）

今日、「地域共生社会」すなわち「共に生きる地域社会」の実現をといふことがいわれています。（中略）しかし、そもそも共生とは何でしょうか。共に生きる社会とはどのような社会なのでしょうか。その答えが、ルフィの言葉にあると思うのです。それは、堂々と「助けて」といえる相手や場所、助けてもらえる関係、お互いに助け合える関係がある、そんなつながりが共有された社会のあり方をいうのだと思います。さまざまな制度を必要な人が権利として利用できる社会のあり方だと思います。ルフィのように自分ができないことを認め、誰かや何かに助けてもらうことへの申し訳なさや後ろめたさ、ためらいや気後れを感じなくてもよい社会のあり方だと思います。安心して助けてもらえる関係があつてはじめて、私たちは生きて生活していくという認識が共有された社会のことだと思います。

（空閑浩人（2016）『ソーシャルワーク論』ミネルバ書房「あとがき」より）

(3) 社会福祉は人なり、地域は人なり、「わがまち」は人なり

*地域の人々への様々な支援や活動を担う私たち、「ともにあることをあきらめない」私たちは、人々と地域、そして社会にとって「大事なこと」をしている

*あらためて「人とその人生や生活にかかわる」って何だろう？と考える

*人、地域を、社会を変える、そして問題を解決する素晴らしい支援や実践も、確かに大事

*その一方で、たとえ問題解決が遠くても、地域が劇的に変わらなくても、日々のささやかで地道なかかわりの積み重ねであっても、その人が「世の中（わがまち）捨てたんじゃない」と思える、そのきっかけになれる支援やかかわり、その人が少しでも「前を向く」「向こうと思える」きっかけになる支援も大事にしたい

みんな育った場所も好きなものも学んだことも全部違うのだ。たとえ近くの人だって、みんな違う。（中略）共通点を見つけていくなんてことは限界があって、わからない人のことをわからないままで、ひたすらわからうとし続けることこそが「関わり」なんじゃないかって。

（最果タヒ（2024）『無人島には水と漫画とアイスクリーム』リトルモア。113頁）

*「誰かとの出会い、かかわり、関係」のなかでこそ、人は「希望」を取り戻す

〇とくにわたしが多くかかわってきたドメスティック・バイオレンス（DV）の被害者は、関係の最も深い他人から、暴力やおとしめによって長期間自分の価値や能力を否定されてきた。そのマインドコントロールの罠と、長いあいだ追いやられてきた孤独の闇から抜け出すには、自分の幸せを祈ってくれる「だれか」がかならず必要である。（53頁）

ODV 被害者は、配偶者から離れ、暴力から逃れられれば、それで幸せになれるというわけではない。被害者の自立とは、大きな喪失の過程でもある。今までの生活世界、人とのつながり、温かい家庭を築くという夢、子どもの教育、老後の人生設計、愛や親密性をはぐくむ自信、世界は安全だという基本的信頼感。それらがすべて奪われる。それらの喪失を認め、受け入れることは、新たな生活に向かうために必要だが、けつしてたやすくはない。けれども、幸せを心から祈ってくれる「だれか」がいれば、被害者自身も幸せになりたいと願い続ける勇気、なれるかもしれないという希望を取り戻すことができる。（53-54頁）

（宮地尚子『傷を愛せるか』ちくま文庫、2022年）

*社会福祉の専門職はもちろん、私たちは互いに、そういう「だれか」であり、「他者」でありたい

3. 「地域共生社会」を、私たちが、私たちのいる場所（「わがまち」）で守り、継承していきたい

(1) 私たちは誰も一人ではいきていけない・・・だから支え合って、補い合って、生きている

*映画「はたらく細胞」のメッセージとは？

（「人」の体内で働いている細胞を擬人化した清水茜原作の連載マンガ。2024年に実写映画版が公開された）

（赤血球「AE3803」（永野芽郁）が、後輩赤血球へ残した手紙）

はいけい まだ小さくてかわいい赤芽球さんたちへ わたしはいぜん、この体ではたらいていた赤血球です。わたしはほんとうにどんくさくて、すぐ道にまようし、細菌やウイルスをたおすことができる白血球さんたちとはちがって、ただ酸素を運ぶしかできないって、なやんでいました。（中略）でも今は、この体をまもっているたいせつな一員なんだと思えるようになりました。だれがえらいとか、だれが強いとかではなく、わたしたちはだれもひとりでは生きていけないから、おたがいにささえあって、たりない部分をおぎないっている、そうやって、みんなでこの体をまもっています。わたしはそんな仲間たちとはたらくことがだいすきでした。体内ではたらく細胞は約37兆個。そのほとんどが、外敵や寿命によっていざれ死をむかえ、新しく生まれてくる細胞たちへと仕事をひきついでいきます。わたしたちははたらく細胞です。わたしの仕事は、あなたたちにひきつります。この体をまもるために、酸素をはこびつづけてください。せんぱい赤血球よ
り （清水茜・時海結衣ほか（2024）『はたらく細胞（映画ノベライズ）』講談社、203-205頁）

(2) 未来を描くことも大切、一方で「ともに良い過去を積み重ねる」ことも大切にしたい

*「今日」や「この時間」が、後になっての「思い出」（良い過去）となるかかわりや時間の共有と積み重ねを大切にしたい（話しあったこと、楽しかったこと、面白かったこと、美味しかったこと、嬉しかったこと・・の経験や時間（その思い出や記憶）が、将来の糧や支えとなる

*人が生きるために「楽しい」ことはもちろん大切。加えて「うれしい」経験を大切にしたい。「悲しさ、辛さ」と「うれしさ」は両立する（たとえば「今は辛いけど〇〇〇してくれて嬉しい」とか、「あのときは悲しかったけど一緒にいてくれて嬉しかった」ことに私たちは支えられる経験がある）

*そして、「うれしい」には「うれしくさせる、うれしくなる他者の存在」（あなたがいてくれて嬉しい、あなたと話せて嬉しい、あなたの気持ちが嬉しい、あなたと一緒にが嬉しい・・・）が必要

*社会福祉や様々な地域の活動とは、「わがまち」での日々の暮らしのなかで、（ともに在って、ともに生きて、ともに育つ）「他者」との出会いやつながり、関係をもたらすもの、そして大切にするものでありたい

おわりに～この時代のなかで、希望を見つけること、紡ぐということ～

(1) 生きるために「尊厳」が守られるとともに、どんなに小さくても「希望」が必要

【シベリアでの強制収容所（ラーゲリ）の抑留された日本人捕虜山本幡男とその家族の物語から】

「希望が必要なんです。生きるために希望が必要なんだ。それがどんな小さなことでもです」

(by 山本幡男) (辺見じゅん (2022)『ラーゲリより愛を込めて』文春文庫、146 頁)

(2) 人の「尊さ」、人が生きることの「尊さ」、そこにかかわる社会福祉に一切の無駄はない

まだ消しゃいいけないよ ちっちゃん希望を 迷わず信じて 信じて欲しい

暗闇が続こうと 貴方を探してみたい だから生きて 生きてて欲しい

有り得ない程に キリがない本当に めくるめく世界に 膝を抱えていたり

誰しも何処かに 弱さがある様に 無駄がない程に 我らは尊い

「Soranji」Mrs.GREENAPPLE 2022（社会福祉イメージソング！？ by Kuga）

*社会福祉（介護・保育・支援）の仕事へ就職した卒業生の言葉から（そこに「希望」がある）

- ①人間らしく働いて生活できる、1日の中で「笑うこと」が多い仕事です
- ②自分を覆う「鎧」がいらなくて、自分を素直に出せる仕事です
- ③一人の利用者のことを、私だけでなく職員みんなで考え、心配し、喜べる仕事です
- ④これだけ、人の歴史や人生のドラマに触れることができる仕事は他にはないと思います
- ⑤毎日「予想外のこと」が起こるので、「ドキドキ」「ワクワク」する仕事です
- ⑥「自分が必要とされている」「大切にされている」から、ここでがんばろうと思います
- ⑦周りの職員が素敵な人ばかりで、このメンバーと一緒に仕事ができることが嬉しいです
- ⑧つらいこともあるけど、「あーやっぱ俺、この仕事好きかも！」って思える瞬間があります
- ⑨大学の先生たちと卒業後も会えるので、いつでも相談できる人がいる、場所があるのは心強いです
- ⑩実習とかで後輩たちが来てくれるのがとても嬉しいし、仕事の魅力を伝えたいと思います
- ⑪仕事についてから福祉の勉強がより面白くなりました。理論と実践がつながるのが面白いです
- ⑫行事やイベントを企画して実行して、成功して皆が喜んでくれたときの達成感がハンパないです
- ⑬「人は人との関係のなかで変わることができる」って言葉を学んだけど、本当にそう思うし、そんな場面に触れることができるのがすごいです
- ⑭「今ここ」が肯定されるかかわりを重ねることで、その人が、過去を引き受け、前を向くことができるよう、過去から未来への「生の時間軸」で展開する凄い仕事だと思います
- ⑮前の（企業の）仕事とは違って、朝起きて仕事に行くのが辛くなったりし、むしろ楽しいくらいです。仕事終わりの時間や休みの日など好きなことをする時間も充実して、なんだかいま、とても幸せです

*こんなに愛おしく、愛すべき若者たちを、私たち大人は裏切ってはいけないのだと思います！

～今日はご清聴ありがとうございました m(_ _)m 広島市の皆さんのお話を応援しています(^^)/～